

男女共同参画推進のための講演会

日 時：平成 22 年 12 月 3 日（金）16:30～18:00

場 所：理学部会議室（理学部 A 棟 1 階）

テーマ：IBM におけるイノベーションとダイバーシティ

講 師：板倉真由美氏

（日本 IBM 東京基礎研究所サービスリサーチ
デジタル・エコノミー担当部長 学術博士）

主 催：奈良女子大学男女共同参画推進室

（男女共同参画推進本部・女性研究者共助支援事業本部
・女性研究者養成システム改革推進本部）

参加者：本学教職員・学生・一般（40 名）



講演会のポスター

講演概要：

1990 年代の危機を脱し改革を成し遂げた IBM のイノベーションのしくみとダイバーシティ推進に関するとりくみについてご紹介いただいた。

・IBM では、世界的問題について有識者が議論・提言する活動（Global Innovation Outlook）や将来を予想して新たなビジネス形態を生み出すための技術戦略（Global Technology Outlook）、市場動向調査（Global Market View）によって、革新的アイデアが上層部のリーダーシップによって生み出され、複合的技術による複合的問題解決が行なわれるようになった。このようなイノベーションのしくみによって、社会にアピールするとともに社員の意識を変化させるということを成し遂げている。

・ダイバーシティに関して、IBM は機会均等の法令順守・数値目標の達成を重視する段階から、女性などの積極的雇用に努める段階を経て、現在は世界に通用する優れた人材をつくることを目指す段階にあり、自己申告による昇進制度などの様々な職場環境改善の取り組みが行なわれている。

重要なことは、女性ばかりでなく男性にとっても働きやすい環境ができるということと、女性を経営意志決定に参加させることをヒューマニズムではなく企業の戦略として行なっているということである。

また最後に、板倉氏ご自身の経験から、本学の教職員・学生に向けて、「これから社会に

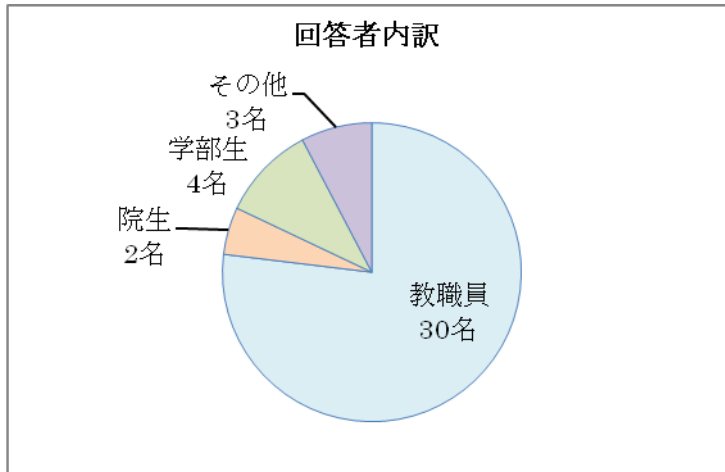


講演会の様子



質疑応答の様子

出る人へ、人生は一度きり、前向きに生きよう」「短期・長期の2つの目標を持つ」「近道はない」「男性もまた Key Player である」というメッセージをいただき、女性を優遇するのではなく活用する発想で男女共同参画推進に取り組むことが大事であると述べられた。

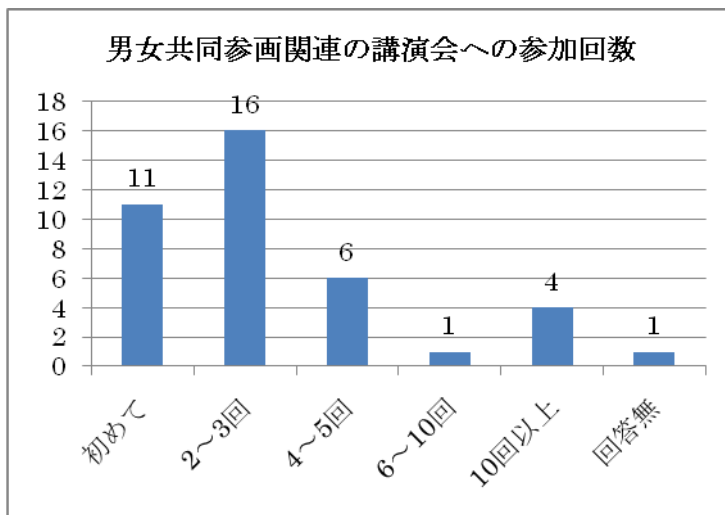


講演後に、IBM の具体的な取り組み内容や、イノベーションとダイバーシティとの関係などについての質疑応答が行なわれた。なお、奈良女子大学女性研究者共助支援事業本部の協力により、当日受付も含めて無料託児を実施し、子育て中の方々も参加しやすい対策をとった。

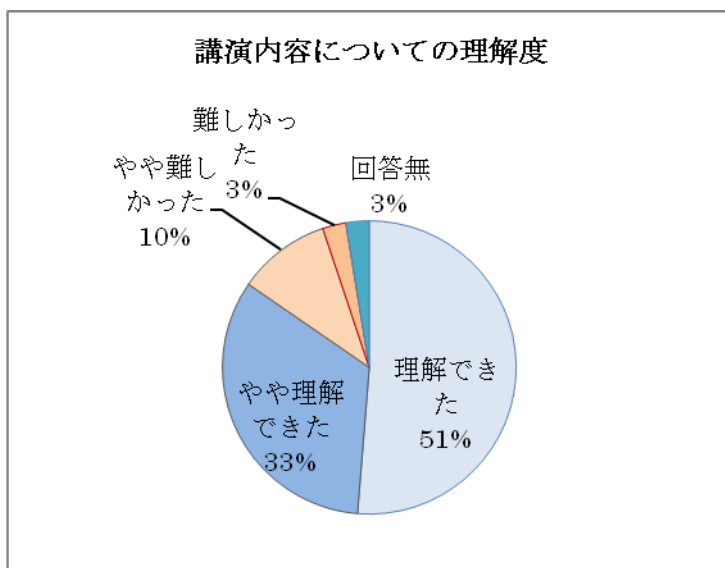
講演会アンケート結果

本講演会ではアンケートを実施した。回答者は 39 名であり、回収率はほぼ 100%である。

集計結果より、男女共同参画関連の講演会への参加回数は、「初めて」が 11 名（内訳：教員 6 名、学生 5 名）「2～3 回」が 16 名、「4～5 回」が 6 名、「6～10 回」が 1 名、「10 回以上」が 4 名（回答無 1 名）であり、約 70%の人が 2 回以上の参加と回答し、男女共同参画活動への関心の高さを示している。



講演内容については、講演内容が「理解できた」20 名、「やや理解できた」13 名、「やや難しかった」4 名、「難しかった」1 名であり、講演内容は「初めて聞いた」32 名、「以前にも聞いたことのある内容」7 名、講演内容を「今後の生活に取り入れたい」31 名であった。



自由記述欄には、「work-life-integration は大変新

鮮な考えでした。」「講演スライドだけでなく、言葉の端々にある現場体験の実感が非常に参考になった（オールド・ボーイズ・ネットワークなど）。これから就職活動をする学生にも聞かせたい話であった。」「大学院の授業で、研究所で働く女性のお話を聞く機会が多いので、企業やそのトップの考え方を聞くことができよかったです。しかしそのあたりが少し難しく感じました。（途中略）男性も自覚し、女性も自意識過剰にならないことが大事だと思いました。」など、多数の感想が寄せられた。また、質疑応答の時間を充分にとるよ
うにという意見や、講演会開催時間についての意見も寄せられた。

数値にみる奈良女子大学の現状

（平成 22 年 5 月 1 日現在）

役員 ○は非常勤で内数				大学教員					附属学校教員			その他職員		
	学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	計	副校長	教諭	計	課長	一般職員	計
男	1	2	1(1)	73	63	1	6	143	2	33	35	8	54	62
女	0	2(1)	1(1)	18	18	4	20	60	2	34	36	1	29	30
計	1	4(1)	2(2)	91	81	5	26	203	4	67	71	9	83	92
女性比率(%)				19.8	22.2	80	76.9	29.6	50	50.7	50.7	11.1	34.9	32.6